

令和8年度 南郷小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：24007

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成 果	課 題
◇学習規律の徹底や授業での導入を工夫することで、見通しをもって取り組むことができ、学ぶ意欲をもたせることができた。 ◇TT や少人数指導の充実により、算数に関して苦手意識をもっている児童も学力上位の児童も基礎的な知識技能を身に付けることができた。 ◇研究主題「主体的に学び合う子どもの育成」を目標に取り組んだことで、自ら意欲的に学び、他人に関わろうとする児童が見られた。	◇昨年度の学力検査から、「算数」の偏差値平均が全校的に伸びているが、標準偏差のばらつきは大きいままである。 ◇学ぶ意欲を持続させる学習支援への工夫が必要である。 ◇学力下位の児童への対応が不十分である。 ◇自分の思いや考えを上手に表現することや、相手の思いをくみ取ったり認めたりすることを苦手とする児童が多い。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
札幌市の共通指標の「自分にはよいところがある」「人の役に立ててうれしいと感じることがある」等の項目において、肯定的な回答の割合が非常に高くなっている。一方で、「自分が必要とされていると感じる」割合は低い傾向にあり、数年間の変化も少ない。今年度は、子どもたちが良い話し方・聞き方を土台として授業に全員参加をすること、より良く伝え合う学習の場づくりを目指すことで、子ども同士が認め合う場面を増やし、相互承認の感度を高めていきたい。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
主体的に学び合う子どもの育成」～全員参加でもっと伝え合う授業を目指して～	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
◇「全員参加」の実現 →全員が学習のスタートラインに立てる環境設定と、「振り返り」の充実。 →見通しをもつことができる学習課題の設定。 →「分かる」授業づくりと、協働探究できる場の設定。 ◇「伝え合う」ための手だて →話し方スキル向上の取組 →「伝え合う必然性」を感じる場の設定や授業デザインの追究。	◇関わり合いを生む（自己肯定感を高める）スキルを養う活動 →「うめライス」「かきこむ」を基盤とした、聞きたくなる・話したくなる場の設定を意識した授業作り。 ◇子どもたちの相互承認を図る活動の位置付け。 →ピアサポートを生かして豊かな人間関係をつくっていく
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
◇他者との関わりを生み出す→オクリンクプラスなどを活用し、他者の考えを見比べやすくする。 ◇教具としての活用 →デジタル教材を用いることで、学びの充実を図る。	

<本プログラムの実行に向けて>

